

11季ぶりAリーグ復帰

天理大ラグビー部

天理大は、堅いディフェンスと厚いフォローで勝利。11季ぶりのAリーグ復帰を告げるノーサイドの笛に、選手も関係者も歓喜した(15日、京都宝が池球技場で)



関西大学ラグビーA、Bリーグ入れ替え戦が15日、京都宝が池球技場などで開かれ、天理大学ラグビー部(Bリーグ2位)が摂南大学(Aリーグ7位)を22-12で破り、11季ぶりのAリーグ復帰を決めた。

「最後まで“安心”していかなかった」小松節夫監督は、試合終了のホイップスルを聞き、初めて「やったなあ」と思つたという。

風上の天理大は、開始早々に先制のトライ。その後、フオード戦で劣勢に立たされ

小松監督は「圧倒的な力で勝ち上がったわけではない。強豪校のそろそろAリーグで戦うには、また力ををつけなければ。来季以降、少しずつ積み上げていきたい」と話した。

るが前半を12-5とリードし、折り返し。後半にも認定トライを奪われ同点に追いかけられる場面もあったが、堅い守りから相手の“穴”を突く攻撃で加点。10点のリードを保ち、試合終了。

かつて関西の大学ラグビでは強豪として鳴らした同部も、平成4年にBリーグに降格。翌年にはCリーグにまで落ち込んだ。8年前に小松監督が就任。以来今年で4年連続、6度目の入れ替え戦。

今年のチームは180才を越える大型選手が一人もおらず、リーグ戦での内容も芳しくなかつた。そこで入れ替え戦の相手を徹底的にビデオで分析し、対応を検討。「イメージ通りの試合展開」で、Aリーグ昇格を決めた。